

SAP ERPグローバル導入事例

イツワ商事株式会社

「五大大陸制覇」を目指すビジネス環境の整備に向け
グローバル情報基盤を構築

電子機器・部品の専門商社として、グローバルにビジネスを展開するイツワ商事株式会社。国内外の基幹システム統合に乗り出した同社は、2016～2018年にかけて日本、香港、中国、シンガポール、タイ、ベトナムにSAP ERPを導入。経営数値情報を一元化し、迅速な経営判断に取り組んでいます。NTTデータ グローバルソリューションズの支援のもと、自社要員が積極的にプロジェクトに参画したことで、課題解決に向けた意識も高まっています。

グローバルビジネスの拡大により
経営情報のリアルタイムな把握が必須

「お客様に『満足』を超えた『感動』を」というテーマを掲げ、35年以上にわたり成長を続けてきたイツワ商事。現在、「五大大陸制覇」という大きな目標のもと、2020年までに売上高500億円の実現に向けて取り組んでいます。国内市場が縮小傾向にある中、全世界でバランスを重視した経営を推進していくと、代表取締役の桑原豊氏は語ります。

「海外の売上比率は2016年の30%から、50%まで拡大しています（2018年現在）。ビジネスの多角化も進めており、主力である調達・物流ビジネスに加えて、委託加工のEMS事業や生産設備を販売するファクトリーソリューション事業及びカーコーティング事業が伸び、構造的な変化が始まっています」

こうした環境変化とともに、いくつかの課題も浮上してきました。これまで海外拠点のシステムは現地に任せ、本社は必要に応じて経営数値情報を収集していたため、各拠点の販売実績や在庫情報をタイムリーに把握することは難しい状況でした。また、世界で活躍するマインドを持った人材の確保／育成も急務となっています。

「将来を見据えて、システムをグローバル統合して

全拠点の経営情報をタイムリーに把握するとともに、世界各地で優秀な人材がフラットに働ける環境を整備することが必須と考えました。経営効率を追求してこそ、海外での勝算が見えてきます」（桑原氏）

大阪本社の既存システムも、会計とロジスティクスは個別に運用していました。「ビジネスの変化に対応できるよう、グループ全社を統合する情報基盤の構築を検討しました」と、経営企画部 次長の十郎兼光氏は振り返ります。

各部門のキーマンの参画を促しながら
自社要員を中心にプロジェクトを遂行

同社は複数のパッケージ製品を比較した結果、海外での導入実績、多言語／多通貨対応に加え、小数点以下の桁数に対応していたSAP ERPを採用。導入ベンダーには商社向けテンプレートを使った短期導入、グローバル展開の実績、スケジュールへの柔軟な対応を評価し、NTTデータ グローバルソリューションズ（以下、NTTデータ GSL）を選定しました。

まずは本社に先行導入し、続いて取引量や決算時期に合わせて香港、東莞（中国）、シンガポール、タイ、ベトナムの5カ国に順次展開していく計画を策定。また、業務部門や情報システム部門からエース級の人材を集めた「経営企画部」が新たに発足し、構想策定の段階から経営企画部が主体となってプロジェクトを進めながら、プログラム開発などにも自社の要員が関わり、ノウハウを蓄積していきました。「プロ



会社概要

イツワ商事株式会社

設立	1981年4月
資本金	3億1,000万円
売上高	300億円(2018年5月期連結)
本社所在地	大阪府中央区上本町西1-1-8 TNビル
URL	http://www.itsuwa.co.jp/
事業内容	調達事業（調達代行・物流代行・輸出入手続き・納期管理）、ファクトリーソリューション事業（代理店販売～主材料から副資材～自動化設備）、EMS事業（部材調達～委託加工～完成品組立）、コーティング事業（BRILA～カーコーティング～太陽光パネル）、国内販売事業（スマートフォン・タブレット用アクセサリ・ペット商品）



会社紹介

1931年創業（イツワ商事としての設立は1981年）。現在は調達、EMS、商材、国内販売という4つの柱で事業を展開しています。日本国内には大阪本社をはじめ、東京、福岡、鳥取、東大阪の物流センターを擁し、海外では韓国、シンガポール、中国（香港／上海／東莞）、アメリカ、ベトナム、タイ、フィリピン、オーストラリア、ドイツ、メキシコに拠点を置いています。これまで築き上げた調達チャンネルとネットワークに乘せて「高品質のサービスと商品」を地球規模で流通することを目指しています。



イツワ商事株式会社
代表取締役
桑原 豊氏



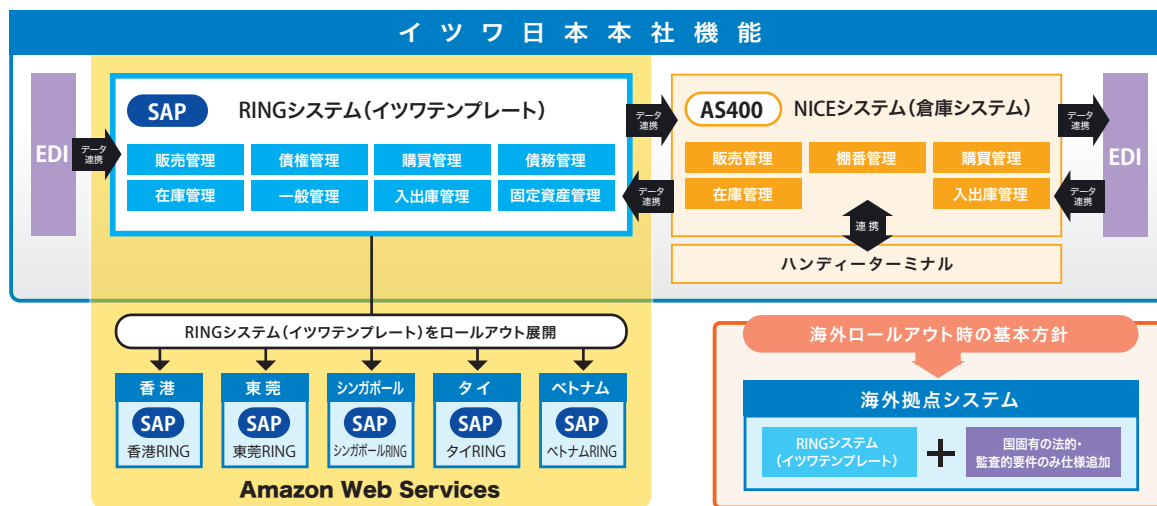
イツワ商事株式会社
経営企画部 次長
十郎 兼光氏



イツワ商事株式会社
経営企画部 課長代理
豊山 智子氏

導入ポイント

- ◆ 会計とロジスティクス系システムを統合して情報をリアルタイムに取得
- ◆ 世界各地で優秀な人材がフラットに働ける環境の整備
- ◆ 拠点間連携によって受発注やマスターメンテナンスを効率化



GSLテンプレートをもとに、ISKグループテンプレート(RING)を作成、海外展開作業を加速

プロジェクトをスムーズに進めることはもちろんのこと、将来的に運用保守も自分たちで対応すること、さらにその先にはシステムを外販することまで視野に入れました」と、経営企画部 課長代理の豊山智子氏は語ります。さらに、プロジェクトはNTTデータGSLの助言を取り入れ、本社導入を2016年1月から2017年6月まで、海外5カ国は国内と一部並行しながら、2016年6月から2018年10月までの期間で実施。各国の業務部門のキーユーザーの積極的な参画を促していきました。

「業務部門のユーザーには、SAP ERPの導入によって何がかわるのか、将来的にどのようなメリットにつながるのかを直に説明しました。日本の業務担当者には、拠点間連携が実現することで数値が可視化され、受発注やマスターメンテナンスが効率化されることを示しました。さらに、海外展開では先行導入した日本の担当者に『この段階でこれをやっておくといふ』といった実体験を話してもらったとともに、システムサポートもすべて日本の本社が一括で対応できるメリットを説明しました」(豊山氏)

導入時はアドオンを極力排して標準機能を活用し、業務をシステムに合わせていきました。海外展開では進捗や作業負担に合わせて柔軟にチームを編成したといいます。

「事業規模が大きく、要件がシンプルな香港で最初に成功事例を作ったことが、後々の役に立ちました。各国の導入を担当するメンバー間で密に連携し、プロジェクト中に発生した課題や、成功点を共有しながら進めました。随時NTTデータGSLにアドバイスをいただけたことで、各国への展開もスムーズに進みました」(十郎氏)

本稼動前にはそれぞれの拠点で導入教育を実施。集合研修、テレビ会議などを駆使して粘り強く対応したことも功を奏し、スムーズな立ち上げにつながっています。

データ連携による経営数値の早期把握と従業員のスキルアップを実現

ITW商事では、業務面を中心にいくつかの効果が現れています。1つは、会計とロジスティクス系システムが統合されたことで二重入力がなくなり、情報がリアルタイムに見られるようになったことです。「データ連携の結果、毎月発生していた入力ミスがほぼなくなり、業務の効率化が進みました。また、ロジ系の担当者が会計業務にも関心を寄せるようになり、売上原価の仕組みを理解するなど、スタッフの意識も高まっています」(十郎氏)

拠点間連携によるメリットはこれからですが、現場からは重複する業務の一元化による生産性の向上が期待されています。

「商流や物流によって多種多様な取引がある中、まずは進めやすい取引を複数ピックアップして、日本ー香港間、シンガポールー香港間などで拠点間連携を始めています。今後、徐々に取引数や連携拠点数を増やして現場の負担の軽減に貢献していきます」(豊山氏)

一方、導入チームにはプロジェクトを通してノウハウが蓄積され、スキルアップにもつながっています。十郎氏は「SAPのプログラム開発に初めて取り組んだメンバーも、1人で開発ができるまでになりました。今後は、海外の法令知識や業務知識を身に付けていきます」と話しています。

す。経営面では、グローバル数値の早期把握による迅速な経営判断の実現などが期待されています。システムを起点とした変化は大きなインパクトをもたらしており、桑原氏は「ITW商事グループが次のステージに進むための第一歩になる」と手応えを感じています。

新たな海外拠点へ展開とRPAによる業務の自動化を検討

今後はSAP ERPと連携するBIツールを導入し、数値確認や分析に活用していく予定です。また、他の海外拠点への展開に向けた検討のほか、将来的には倉庫管理システムをパッケージ化し、SAP ERPとの連携を目指すといっています。さらに、現在紙ベースで受け取っている外部委託倉庫の入力の自動化に向けて、NTTデータグループのRPAツール「WinActor」を導入し、業務負担とミスの軽減に取り組んでいくことを明らかにしています。

3年近く導入を支援したNTTデータGSLに対して豊山氏は、「一緒にプロジェクトを進めるパートナーとして寄り添いながら、業務側とテクニカル、両方の視点から適切なアドバイスをいただきました。保守のフェーズにおいても、お付き合いいただくため、引き続きご支援を期待しています」と話しています。

将来に向けた強力な経営基盤となるシステム統合を実現したITW商事。次のステップとして桑原氏は「ヒト・モノ・カネ(国内・海外の経営資源)を組み合わせ、ダイバーシティを進めながら、さらなる成長を遂げていきます」と力強く語っています。

株式会社NTTデータ グローバルソリューションズ

E-mail infoevent@nttdata-gsl.co.jp URL <https://www.nttdata-gsl.co.jp/>

【東京ヘッドオフィス】 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-4 浜離宮三井ビルディング 4F
【西日本オフィス】 〒541-0058 大阪府大阪市中央区南久宝寺町4-1-2 御堂筋ダイビル 7F

※SAP及びその他のSAPの製品やサービスは、ドイツ及びその他の国におけるSAP SE(またはSAPの関連会社)の商標もしくは登録商標です。

※その他記載されている、会社名、製品名、ロゴなどは、各社の登録商標または、商標です。

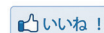
※本リーフレットに掲載されているロゴ、文章、写真その他のイラストを無断で転載、複製、再利用を禁止します。

※記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。

Facebook 公開中!



「いいね!」して下さい!



<https://www.facebook.com/nttdatagsl>

